

活動報告書

報告者氏名：成田芳子 所属：栃木県立足利特別支援学校 記録日：2015年2月27日

【対象児の情報】

○学年

中学2年生の女子

○障害名

病弱、知的障害

○障害と困難の内容

- ・できる能力があっても経験不足や不安感から行動に移すことに戸惑ってしまうことがある。
- ・学習した活動に対する見通しや記憶が曖昧になってしまい、支援を求めることが多い。
- ・友達など人との関わりを好むが、意思を言語化して伝えることに苦手意識がある。
- ・視覚機能（特にはやい眼球運動）が弱く、正確に文字を追って読むことが難しい。字や行を飛ばして読んでしまうため、正確に情報を取り入れることに困難がある。粗大運動などの動きや文字の読み書きに課題がある。

【活動目的】

○当初のねらい

i P a d を記憶の支援ツールとして情報を整理し、見通しをもって活動できた経験を積み、自信をもって行動できることを増やす。

課題に対しての情報を得て整理し、「見通し」「振り返り」の経験を積み重ねることで、自分で考えて自分で行動できる力を養うことが大切と考える。考えて行動できた「成功体験」を積むことは、心理的にも安定し、学習意欲向上につながる。これらの活動を通し、「書く」「話す」「伝える」経験から語彙力を高め、言語表現する喜び、コミュニケーション能力の向上も目指したい。

・実施期間

平成26年5月15日～

・実施者 成田芳子

・実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・好奇心や向上心が強く、見通しをもてた活動は意欲的に最後までやり遂げようと努力する。
- ・3つ以上の約束や活動を覚えて行動することが難しいが、視覚的支援を用いて指示することで適切に行動できる。
- ・視覚機能に課題があり、指示した位置に視線を向けることが困難で、情報を正確に把握することが難しい。
- ・本を読むことや文字を書く活動に対しての学習意欲が高い。平仮名や片仮名は、おおよそ正確に読み書きできる。特に、漢字を読み書きしたい気持ちを強くもっており、小学1年程度の漢字を学習中である。

○活動の具体的な内容

1 学期（活動を見通す基礎となる力を高める）

- ①教師が撮った画像による学習や活動の振り返り、コミュニケーション補助ツール→「写真」
- ②指定した情報に正確に視線を向ける意識を高める→「AR Missile HD」「Action Movie」
- ③情報を調べる力、活用する力を高める→「safari」「You tube」

使用したアプリ

写真



AR Missile HD



Action Movie



safari



You tube



2、3 学期（情報を整理し、自ら行動できる力を高める）

- ④課題の認識、情報収集→「safari」
- ⑤具体的な取組方法、見通しの明確化→「ロイロノート」「Drop Talk HD」
- ⑥実行→「ロイロノート」「Key note」「写真」「筆順辞典」「iMovie」「i 暗記+」
- ⑦振り返り→「ロイロノート」「写真」（動画）

使用したアプリ

ロイロノート



Drop Talk HD



Key note



写真



筆順辞典



iMovie



i 暗記+



○対象児の変化

1 学期

①について

重度重複障害のある友達と、思い出の共有や自分の近況を伝える手段として自ら iPad を使用する様子が見られた。写真を見ながら伝えられたことで、積極的に話しかけ、言葉を表出することが多くなった。また、画像で活動を振り返り感想を言う学習を行うことで、出来事を明確に思い出し自分の知っている言葉で伝えられた。

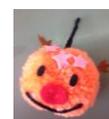


②について

「AR Missile HD」「Action Movie」を使い、教師が指定した場所を撮影した。カメラを通して見ることで、教師も生徒の視線の先を確認することができ、言葉かけをしながら学習を積むことができた。どこに注目すればよいのか理解できたことで、カメラで必要な情報を一人で撮影することができるようになってきた。

③について

課題に出されたことから、疑問に思ったことや分からないことを検索し、情報収集を行った。ひらがな入力を覚えて知りたい事柄を自分で検索するスキルを身につけた。また、自分で理解しやすい情報源を選び、活用できた。毛糸を使ったマスコット作りでは、細部を確認しようと必要な情報を検索することができた。また、長期欠席している友達を元気づけようと、自宅で You tube で調べて、キャラクターの折り紙を折るなど、家庭でも学習したことを活かすことができた。



2、3学期

単元名 活動	学校祭でダンス発表を しよう	職場見学へ行こう	漢字検定10級にチャ レンジしよう	職場体験学習（喫茶 サービス）に行こう
④課題の認 識 情報収集	ダンスを調べる  	・ 見学先の情報収集  	・ 前回の受検で筆順が 弱いことが分かる	・ 日程、持ち物確認  
⑤取組方法 見通しの明 確化	衣装やダンスを考える 	・ 質問を考える 	・ 筆順学習を強化  	・ 作業の手順書作り  
⑥実行	・ 原稿を読む練習   ・ スライド作り  フラメンコの衣装  スカート  カスタネット ・ 小道具作り、準備  ・ 動画で動きを確認す  	【職場見学当日】 ・ 見学をする ・ 気になったことを カメラで撮影する    ・ 事前に考えた質問 や実際に見学して疑 問に思ったことを聞 く 	・ 書き練習 ー教師と確認ー   ーアプリで確認ー   ・ 読みの練習  	・ 作業直前に確認  ー手順ー  ー接客の言葉ー   ・ 接客 

<p>⑦振り返り</p>	<p>・学校祭で発表</p>  <p>・画像や動画で事後学習</p> 	<p>・分かったことをまとめる</p>   <p>・発表する</p> 	<p>・漢字検定 受検</p>	<p>・音声入力を活用して分かったことや感じたことをまとめる</p>  
<p>対象生徒の変化</p>	<p>友達と協力して作り上げた達成感と舞台上で発表できた自信を高められた</p> <p>→学習意欲の向上</p>	<p>パン屋で働きたいという夢ができ、そのために必要な力を自分で考えて目標をもつことができた</p> <p>→将来働くことへの意識の高まり</p>	<p>iPadで筆順の検索の仕方を覚えて正しく書ける文字が少しずつ増え、読み書きできる文字も増えた</p> <p>→文字の読み書き力向上、語彙力の向上</p>	<p>初めての職場体験であったが、事前学習を思い出し、状況に応じ、落ち着いて行動できた</p> <p>→見通しをもって行動できる力の向上</p>

－スライドの一部－

質問2クッキーのかたちどうやって決めているんですか？	回答2 かわいい形を職員が決めてます。
将来やってみたい仕事は？ パンを作る仕事	 <p>かわいいクッキー焼きたのかあります。</p>
今日からがんばる目標は？ 早く寝て早くおきる きそくたしいせいかつをする	
そのために必要なことは？ 時間をまもる	

－スライドの一部－

<p>実習の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 時間を守る 2 わからないときにはすぐに聞く 3 最後までがんばる 	<p>体験した仕事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 お掃除 2 水や料理運び 3 いらっしゃいませ、少々お待ちくださいと言う 4 注文を取る
<p>難しかったこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食器を持っていくこと 2 テーブルふき 3 水運び 	<p>将来に向けてがんばること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体力をつける 2 掃除をがんばる 3 早寝をする 4 早くお風呂に入る

【報告者の気づきとエビデンス】

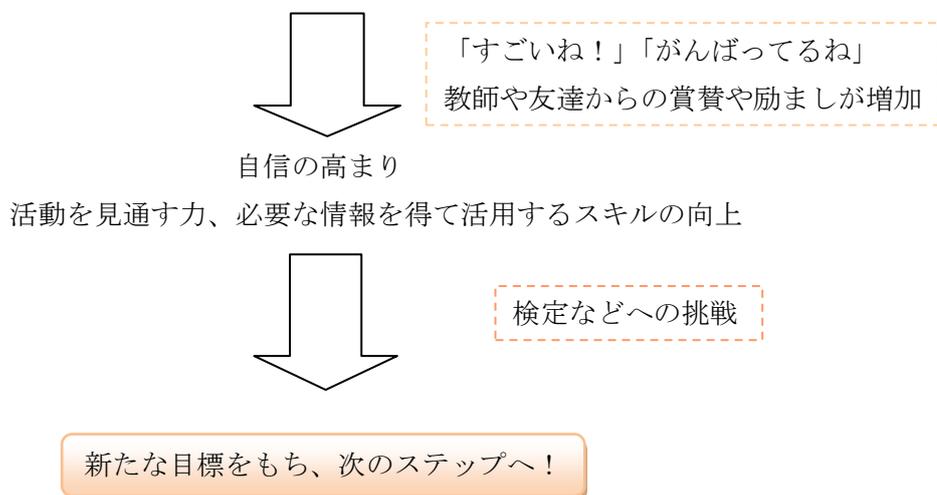
○主観的気づき

- ・活動が認められたことで、自分の役割が分かり最後まで取り組むことができた。
- ・主体的に活動できたことで、友達と役割を決めて、楽しみながら行っていた。
- ・認められたり、賞賛されたりしたことで、自分のがんばりや良さに気がつくことができた。
- ・「分かりません」とすぐに支援者を頼ってしまうことが多かったが、自分なりに見通しをもって次の行動に移せることが多くなってきている。

○エビデンス

iPad を情報支援ツールとして活用したことで・・・

- ① 自分から意見を言うなどの語彙の向上が見られた。
- ② 簡単な文章を理解し、活動の手順や作業効率を考えて行動できた。
- ③ 使い始めた頃は、吃音のため Siri や音声入力機能が上手く活用できなかったが、自信や知識の高まりから発音がなめらかになり、音声入力機能が活用できるようになってきた。
- ④ 友達の様子を見ながら行動することが減り、時間に合わせて率先して適切な行動ができた。



その他エピソード

・修学旅行では、学校に残った友達と現地を繋ぐ手段として Bytalk を使用した。学校と連携し、現地での活動の様子や印象に残った風景や食べ物など、現地で感じていることを送信した画像やコメントがホームページでアップされたことで、友達や家族に自分の活動を伝えられた。楽しさや嬉しさを共感してもらえたことで、より活動を楽しもうとする様子が見られた。Bytalk で学校以外でもクラスの友達や教師と会話ができることで、繋がりを感じているようである。修学旅行後もクラスの連絡手段として活用している。今後 SNS を利用する可能性が高い生徒である。教師や保護者の目の届く Bytalk で SNS の便利さやマナー等を実践の中で学び、知識を習得し今後の生活にいかしてほしいと考える。



・「iPad はパートナー」本生徒に 1 年間使ってどうだったか、感想を聞いた時に最初に出た言葉である。自分の苦手とするところを iPad で補うことにより、ひとつひとつの活動に前向きに取り組み、確実に行動することができた。時間に合わせて行動するなど活動を見通す力、必要な情報を得て活用するスキルを養いながらいきいきと成長している様子がうかがえる。